

学園ニュース

富山大学

NO.57

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

昭和 62 年 10 月 12 日



学内風景（その22）経済学部北側の風景 竹内麻理

◇◇◇◇ 目 次 ◇◇◇◇

地域共同研究センターについて	地域共同研究センター長 宮下 和雄	2
新任教官紹介及びあいさつ		3
ロンドン雑感	教育学部教授 神谷 重徳	7
バッファローにて	教育学部助教授 山野井敦徳	8
ベルジャン・ライフ寸描	理学部助教授 岡部 俊夫	9
留学漫筆	外国人留学生（人文学部） 孫 久富	10
西ドイツロイトリンゲン教育大学留学で私の得たもの	教育学部中学校教員養成課程3年次生 篠川加代子	13
学内交通対策について	富山大学構内交通対策委員会委員長 中村 良郎	14
昭和62年度富山大学公開講座		15
学生部・保健管理センターだより		18

地域共同研究センターについて

地域共同研究センター長 宮下和雄

はじめに、学園ニュース編集委員の方から紹介と抱負などについて書くようにとの依頼がありました。センターが発足したのが今年の5月21日、そして学報第283号（6月1日）に「学内規則」欄にセンター規則が紹介されただけでありますので、この機会に是非紹介させていただき教職員各位のご理解とご協力を載きたいと思っております。

1 設置の経緯

本学将来計画（60年）の中に工学部から提案されたもので、将来計画委員会（60年5月24日）に報告された。そして、62年度の概算要求として工学部から出され、本年5月21日に国立大学で第一号として認可されたものです。

この実現に際しては全国で初めての試みであり、学長、事務局長を始めとして大学事務当局の方々の多大なご協力、そして富山県も「産学官共同研究」はテクノポリスの中心課題であるとの認識から、県知事、県議会を始めとして各界（北陸経済連合会、富山県商工会議所連合会、富山県商工連合会、富山県中小企業中央会、富山県経営者協会、富山経済同友会、富山県技術開発財団、富山県機械工業会、富山県化学工業会、富山県鉄鋼金属工業会、富山県プラスチック工業会、富山県電子電機工業会）の強力なご支援によって実現したものであります。

2 目的

大学の研究、教育の一層の活性化を促進するため民間の活力即ち人と資金及び社会のニーズを導入すること。そして民間に対しては技術者の育成と研究開発の支援に協力し、自主技術の確立に協力するためです。その他、技術相談や外国研究者とのジョイント研究にも対応するためです。

3 共同研究分野

本センターはメカトロニクス、電子デバイス、新素材、バイオテクノロジー及び人工知能とシミュレーションを主分野として計画されています。

4 施設、設備

センターの建物は工学部の敷地内で富山商業高校寄りに建設中で、第一期分として2階建て1100平方メートルで、来年3月に竣工します。63年度には2000平方

メートルに増築の予定です。

設備は今年度分としては薄膜製作装置であるスパッタリング蒸着装置と、CVD装置、分析装置として熱分析-質量分析装置、さらに薄膜単結晶製作装置の分子線エピタキシャル成長装置もセンター内に設置されます。年次計画で順次整備する予定です。

5 職員

現在は助教授1人及び客員教授3人が定員として認められています。ここでの客員教授は民間機関に在職している人が対象となっています。さらに目的をより効果的に達成する為に技官、事務官の定員を計画しています。

6 運営

センター長が運営委員長を兼任し、工学部、理学部、教育学部、教養部及びトリチウム科学センターから選出された16人の運営委員によって行われます。（学則参照）

7 62年度の動き

(1) 富山大学として共同研究が8件契約されました。そのうちセンターとして引き受けたものは現時点で次の3件です。

- ① 高誘電率セラミック誘電体を用いたEL素子の研究……北陸電気工業KK
- ② 酸化物超伝導体の臨界温度と格子定数に関する研究……北陸電力KK
- ③ 精密押し出し加工によるねじれ溝の形成の研究……石川播磨重工業KK

件数が少ないのは共同研究の申し込み期限が年度末迄でセンターが発足したのが5月といえ事情によるものです。

(2) これまでの共同研究の契約が主として、民間機関と教官の個人的なつながりに頼って行われてきましたが、この度センターの発足に当たり、共同研究の積極的な発掘、共同研究の適切な組合せの実現、そして社会のニーズの把握による研究意欲の刺激という効果を狙って、次の試みを実施しました。

- ① 共同研究テーマを学内の教官から募集し、そのテーマに対し民間機関に共同研究への参加

の呼掛け。

② 民間機関から共同研究テーマを募集し、そのテーマに教官の参加を呼び掛ける事等によって積極的に共同研究の実現を図ろうとするものです。

(3) 重複になりますが、近年、研究が大型化、ハイテク化そして境界領域化してきており、一人または一つの研究室単位で研究を遂行することが困難な状況になってきております。もし研究費と研究協力者があれば、こんな研究をしてみたいと幾度か経験されていることと存じます。このような場合

には共同研究の利用をお勧めします。微力ながら研究協力者の紹介に努めますので気軽にお申し込みまたはご相談ください。

8 おわりに

凡その輪郭がおわかり載けたと存じます。国立大学一号として文部省を始め全国の大学の注目と産業界の期待を担って生まれたばかりです。

今後、初期の目的に沿って一步一步着実に成長していくよう努める所存ですので、教職員各位のご協力とご支援をお願いして紹介を終わります。

~~~~~ 新任教官 ~~~~~

○バレストリエリ・エリザベス・ブラウネル
外国人教師（人文学部）62. 5. 20
1986. 8. ウィスコンシン・ミルウォーキー大学
博士課程修了
（1986. 8. 博士号（英語））
担当：英会話，英作文，アメリカ文学
特殊講義

○山本 健市 助手（工学部） 62. 6. 1
昭 58. 3 慶応義塾大学経済学部卒業
担当：機械的単位操作

○山崎登志成 講師（工学部） 62. 5. 1
昭 55. 3 名古屋大学大学院工学研究科博士
後期課程単位取得満期退学
（昭和58. 3. 工学博士）
担当：電力工学

○蘆田 完 助手（トリチウム科学センター）
62. 7. 1
昭 55. 3 富山大学大学院理学研究科修士課
程修了
担当：環境領域



I was born in Detroit, Michigan, the oldest of the three daughters of Robert Brownell, a high school principal, and Dorothy Ault Brownell, a watercolorist and oil painter. My father fostered progressive education

combined with discipline and my mother stressed independence and creativity. I received a B.S. in Education from the University of Michigan, and after my first marriage, taught in the public schools of Milwaukee, Wisconsin. I received a Ph.D. in English from the University of Wisconsin-Milwaukee in 1986. My previous publications include poetry, fiction and literary criticism, and I was the winner of the Bucksnot Press Prize for a poetry chapbook and the Frederick Hoffman Prize for an essay on Ezra Pound.

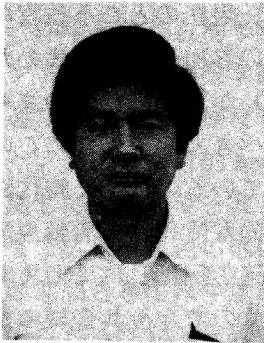
I will present a paper at the 1987 Convention of the Modern Language Association (U.S.A.) in San Francisco on the work of Andre Malraux and T.E. Lawrence.

I am currently Foreign Lecturer in American Literature and Language at Toyama University. My husband, Peter Balestrieri, is an artist who works in oils and watercolor, pen and ink. We are both enjoying the wonderful landscape of the city of Toyama and believe its mountains and seascape will engender many paintings and poems. We are learning to cook and to garden in the Japanese way, an art in itself, as well as enjoying new friendships with the fine members of the English faculty at the university. We hope, someday, that each of our six children will have an opportunity to visit this special place, and benefit, as we have, from the graciousness and generosity of the Japanese people.



新任のご挨拶

工学部講師 山崎 登志成



5月1日付で電気工学科に着任致しました。私は富山の出身ですが、故郷に住むのは高校を卒業後名古屋に出てから実に16年ぶり、再び富山に戻ってくることになり本当に感慨深く思われます。学生時代から研究

生の時代まで計12年を名古屋で過ごし、その後4年間を東芝に在籍し、川崎周辺に住んでおりましたので、こちらに来た当所は学生が聞きなれない富山弁を使うことにおどろき、また長年使いわすれた富山弁を自分も次第に使い出していることにとまどいを感じた次第であります。

現在週一回、講義と学生実験を担当していますが、初めての講義にその難しさを痛感しております。もうすぐ試験ですが、自分が試験問題を出す立場に立つとどんな問題を出そうか、とくに合格と不合格の判定基準をどうしようか今から悩んでおります。4年生が相手ですからあまり不可はつたくありませんし、なるべく全員合格してほしいものです。学生

実験の方は毎回同じ事を行なうわけですから困難はありませんが、高電圧実験とあってやや恐怖を感じております。何しろ東芝在籍中、某H社において入社1年の社員が高電圧で感電死したと聞いておりますから。

私の専攻は応用物理で、学生時代は金属の電子物性、磁石材料や半導体の薄膜工学の研究を行ない、東芝ではLSIの製造プロセス技術のうち主に金属の配線に関する量産技術を担当致しました。今後の研究テーマについては、あまりいろんなことをやらないで何かに絞ってやった方が良くとおっしゃる方もいらっしゃって、まだはっきりとは決めかねている状態です。とはいえ、遊んでいるわけにはいきませんから、とりあえず放射線検出器の開発研究、スパッタリングによる製膜技術の研究を行なうべく準備中であります。大学や会社で身につけた事を活かして、独自のものを作っていければと願っております。

これから冬に向いますが、表日本の空の青い冬になれてきましたので、薄暗い北陸の冬がどんなであったか楽しみです。

今後ともよろしくご挨拶申し上げます。

ご挨拶

工学部助手 山本 健市



私はこれまで工学部で技官として勤務してきましたが、この度、先生方のご尽力により助手として採用していただきました。気持ちを引き締めて頑張りたいと思っております。

私は約23年前に現在の富山県立技術短大を卒業後、工学部の機械工学科機械力学講座に技官として約3年間在籍し、そこでは機械の振動等に関する実験に接することができました。

その後、化学工学科が新設された際に、現在所属している講座（化学工学科機械的単位操作講座）に

移りました。当講座では化学プロセスにおける粒子の諸科学、いわゆる粉粒体工学についての研究がなされています。当講座の粉粒体工学についての研究内容が私がそれまでに体験してきた分野とは異なっていたために当講座に勤務し始めた頃には専門知識もなく戸惑いました。しかし、研究、卒論等の仕事にも参加させてもらい、研究方法や専門的知識について色々と教えていただきました。

この間に、基礎工学や数学、統計学等の知識の重要性を痛感しました。そこで、これらを学ぶための工学系大学の通信教育について調べてみましたが、残念ながら当時そのような制度はありませんでした。結局、大学の通信教育では数学や統計学を学ぶこと

のできる経済学部に入學し、そこでは主として統計学的手法を用いる計量経済学に関心を持ち、卒論では多変量解析法による需要予測をテーマとしました。これらを通して、人間の心理的効果も関与する経済的な諸現象でも統計的手法を用いることによってうまく説明できることの面白味の一端を窺い知ることができました。このような統計的手法を当講座での粒子形状解析等の研究においても現在活用しています。

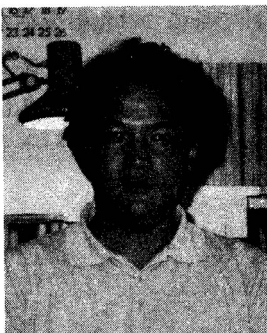
現在では、情報を伝えるメディアも多様化しており、自然科学系大学の通信教育も行い易い環境にあると考えられます。是非このような制度を整えて欲しいものです。

話は変わりますが、急テンポで発達する科学技術の中にあって、大学の技官の方々にとっても益々高度な専門的知識の修得が要求されているものと思われます。しかし、以前にも当欄で工学部の教官の方が指摘されておられたように、現在のところ技官の人達にはそのような学会等への参加や学会発表のための出張の制度（予算的措置）が認められていません。科学技術の最先端を歩むべき大学で未だにこのような消極的な措置がとられているのは全く時代錯誤の感があります。誰でも積極的な情報収集活動や学会での活動ができ得る制度の確立を切望しております。

最後に、何分新前の助手ですので今後共皆様のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

新任の御挨拶

トリチウム科学センター助手 蘆田 完



富山大学トリチウム科学センターの助手として7月1日に着任いたしました。ここで、水素の放射性同位元素であるトリチウム（三重水素）の環境、物性、反応領域における理工学的基础研究と応用技術について

研究を行うこととなります。

私は富山大学理学部に在籍していた学生時代から放射性同位元素を利用した研究を行ってきており、放射性同位元素の使用と取り扱いに対して感情的な抵抗感は無く、むしろ身近なものと感じております。

現在は、あらゆる意味で自分の責任が次第に重くなりつつあると言う実感を持っております。

私がここで何を為し得るのかと言う問いには、私が何を知りたいのか、あるいは何を明らかにする必要があるのかを、それこそ懸命に考えることで回答出来ると信じておりますが、為し得たことに対しては独善に陥らぬため、是非とも皆様の御批判を頂きたいと考えております。

どうか宜しくお願いいたします。

ロンドン雑感

教育学部教授 神谷重徳

昨年8月から約半年間、主要な研究機関としてロンドン大学精神医学研究所児童青年精神医学部門を選び、障害児の療育をテーマとして広く見聞して来た。英国の療育的 needs を求める障害児の Care に関して、公的サービス機関はもとより一般市民層にまで広がる底辺の幅に強い感銘を受けた。臨床専攻の期間としては中途半端なものであり、決して楽ではなかったが、又苦勞と表裏一体をなすような楽しみがあったことも確かである。

研究所は、医学部卒後の精神科専門医を養成する英国精神医療の中心的存在である。市の南部、都心よりバスで約30分、医科大学をはじめ2~3の大学の集まる文京地区の一角を占めている。一見良い環境に見えるが、移民居住区に隣接しており、ロンドンが今や多民族社会へと移行しつつある現実を直視させられる毎日であった。他民族移民が多くなるにつれて、もともと居住するイギリス人がどんどん郊外に移転して行き、今やロンドン人口の7割が移民で占められている。移民の密集する地域で犯罪発生率の高くなるのはロンドンとて例外ではない。市北部の日本人の多い地域に住む気楽さを取返して避けることにして、私は移民居住区に程遠からぬイギリス人宅に週3回夕食付きの条件で下宿した。研究所まで徒歩15分という距離の魅力もさること乍ら、家族を伴わぬ身軽さから好奇心が働いたのである。下宿はイギリス人の住宅街の中にあるのに周囲に防犯ベルをはりめぐらし、For saleの広告をかかげて移転準備に余念がなかった。ロンドンでは、レストランの夕食が一般に遅い。夜道を歩くときは、広く明るい通りをえらんで迂回した。薄暗い路傍に複数の黒人青年がたむろしているようなものなら、酔は一時にさめはて、身構え乍ら歩いたものである。おかげで路上の被害はなかったが、クリスマスに辛い想をした。都心のホテルに滞在せざるを得なくなった上に、バスやタクシーの走らないことを知り、クリスマスイブの招待を断る羽目になった。家主がカントリーに行くため留守宅に盗難保険をかけたのである。家主はオックスフォード出の引退弁護士であり、親切だったが泥棒には勝てない。ある時、彼の学友であるパキスタンの裁判官と食事を共にした。色こそ黒い

が立派な紳士の彼が、真昼間の市中で襲われた財布強奪事件を慨嘆してからは一層用心した。自分の経験でしか云えないが、アラブ人やイギリス以外の白人はさておくとして、インド人や年輩の黒人は概して親切であるのに、その2・3世代が問題となっている。日本が犯罪発生率の低いことで世界一安全なのは本当に素晴らしいことである。

移民は、その種類によって職業の別ができていくようである。私の専門領域でみると、一般市中病院の医師や専門職にはインド人や黒人などもみかけるが、Postgraduate が学ぶ研究所スタッフともなるとイギリス人の他にはユダヤ人が少しいる位のものである。あるスタッフは私に人を紹介した後で、さり気なくユダヤ人と教えた。他のスタッフは私に「外人〜」と呼びかけたが、彼自身が滞日中にそう呼ばれており、格別他意はない。エピソードといえば、11月にアン王女が研究所を訪問している。コーヒータムの折にスタッフが王女に紹介され簡単に挨拶したのであるが、なぜか一外国人にすぎない私にもその機会が与えられた。見渡してみたところ、イギリス人でないのは私だけのように思われた。下手な英語に冷汗をかいたが、それも今では懐しく思い出される。それにしても障害児療育への手厚い配慮と他民族の扱い方の差には、異和感が残る。過渡的なものであろうが、民族問題は難しい。

ロンドンは、都心の喧騒を別にすれば、広い道路、住宅、公園に恵まれ、空間がのびのびと広がる静かな街である。公園を横切って研究所に通ったが、約7分間に見るのはリスや小鳥ばかりで、極く稀に犬連れの人すれちがった。犬の吠声を聞かないのが不気味であったが、休日になって多くの犬が群れて公園の芝生を駆けまわるとをみて安堵したものである。住宅の戸口や窓辺にさえも人影をまるでみかけないし、乗物も静かである。バスの車掌の大方は黒人であるが、彼らは切符をきるのみで、乗客が頼まなければ停留所案内をしない。旅人は降車にまごつくが、大多数の乗客は慣れていて困らない。郊外電車もしかり。研究所も本当に静かなものである。疾駆する車の騒音や2階までまい上がる砂ぼこり、そして学生のマイク放送や楽器に悩まされる富大研究室、

それに「雷鳥」やバスでくりかえされる車内放送を
思うと、近年の日本が概して騒々しくなり余裕を欠
いて来たように感じられる。

それはさておき、広い庭と公園や冬枯れしない緑

バッファローにて

教育学部助教授 山野井 敦 徳

筆者の滞在したニューヨーク州立大学バッファロー校は、ニューヨーク州の西のはずれに位置しています。バッファロー市の位置をご存知ない方でも、ナイアガラの滝のある所と申し上げれば、ご理解いただけるかと思えます。日本ではあまり知られていませんが、チキン・ウィングスの発祥の地としても当地では有名です。市の人口は郊外を含めておよそ50万人、郊外に広がるのびたアメリカでは平均的な地方都市です。むかしは、鉄道や運河を利用して東部や南部へも便利がよく、製鉄業を中心とした重工業が発展していたようですが、現在ではアメリカ経済の地盤沈下とともにかなり斜陽化した印象もぬぐえまん。冬には近くの五大湖やジェット気流の影響もあってか、アメリカではもっとも雪深い地域の一つです。この点は、日本の北陸地方と非常によく似ています。バッファロー市との姉妹都市がお隣の金沢市というのも、ある意味でうなずかれます。

バッファロー校は、ニューヨーク州立大学群（SUNY システム）の中でも研究を中心としたもっとも大きな大学院大学ですが、1849年に設立され、現在ではおよそ4,000名の教授団を中心に、学生数は27,000名でそのうち7,000名が大学院生です。1973年にはダウンタウンからおおよそ15マイル離れた郊外に新しいキャンパスを加え、そこに、アメリカの比較的古い大学としてはめずらしく近代的な建物が集中しています。移転前の大学紛争期には、パークレイと並んで全米でもっとも学生紛争が激しかったといわれています。そのためニュー・キャンパス設置に際して、室内で大規模な集会が開かれないよう設計に配慮されたといわれています。当大学と我が国の大学との交流も深く、国際キリスト教大学と金沢大学とが姉妹校になっており、近代的な学生寮は金沢ご出身の建築家の手になる設計だそうです。

筆者のお世話になりました比較教育コースには、今春までアメリカ比較教育学会長をしておられたゲール・ケリー教授、同学会の編集長のフィリップ・

の芝生に恵まれるロンドンなのに、秋になっても虫の音が聞かれないのは何故だろう。次第に高くなる虫の音を聞き乍ら、彼我の違いに想を馳せるのである。

アルトバック教授がおられ、この分野では全米でもっともストロングな一つだという評価を得ています。さらに今秋からは、コロンビア大学のある著名な比較教育学者が招へいされることになっています。比較教育という国際的な性格や高い評価を受けているということもあって、この大学の比較教育学コースは、きわめて国際的で色々な国々の留学生が所属しています。とくに発展途上国出身の留学生が多く見うけられました。もちろん、ここには教授国の研究対象国も反映されていますが、この大学が州立大学の中でも比較的授業料が安く、地方都市なので生活費もあまりかからない点が、留学生にとって魅力の一つになっているのではないかと思います。中世ヨーロッパ大学の学生達は各国出身ごとに国民団を形成していましたが、現代の多民族国家アメリカにあっても、発展途上国の留学生同志がある種の国民団らしきものをつくって自衛している様子は、誠に興味深く思えました。

筆者は滞在中にいくつかの講義に出席する機会がありました。この学部の1限目の講義は午後からスタートし、最終クラスは9時すぎに終わります。アメリカの大学院大学はどこもそうですが、シラバスには前もって各時間に必要なリーディングスの文献が提示してあり、1週間に平均して10冊以上の文献に目を通さなければならないようです。受講してみても学生の出身国の多様さと同様、年齢構成がきわめて分散している点にも驚かされます。30代前後を中心に40代、50代の学生もめずらしくありません。ご存知のようにアメリカでは自らの生活費や授業料を稼ぎながら、大学と社会の間を往復して文字通りリカレント教育を受けているのです。大学自体が生涯学習の機関として位置づけられているのです。大学当局もこうした学習スタイルに協力的で、各種の学内アルバイトをあっせんしたり、ティーチング・アシスタントシップの機会を提供しています。このような学生への支援のために、多くの大学ではキャリア

開発のためのカウンセラーや部局を設けています。

講義の様子については今さら筆者の蛇足をつけ加える必要ありませんが、受講生は1セメスターに何回かのレポート、口頭試問それに小論文が課せられるため大変なようです。講義そのものは飲み物や果物を持ち込んで自由な雰囲気で行われるのには、少々、驚かされます。いずれにしてもアメリカで学ぶ学生は実によく勉強しますが、とくに発展途上国からきている留学生は、母国からの奨学金や母国の政治状況を気にしながらの勉学で苦勞も多いようです。比較教育学コースに所属する留学生の研究テーマが母国の教育に関連したものが多く、資料蒐集のため一時、帰国することもあり、その出費も馬鹿になりません。政状の不安定な国からきている留

学生は帰国もままならない場合もあります。このような事情もあって無事 ph.D. を獲得するまでの期間は、かなりの個人差があります。

現在、アメリカの大学社会は学生消費者時代が到来したといわれています。学生数が減少すれば、そのプログラムは廃止され、大学の教師も失業の危機に直面するわけです。学生ばかりでなく、大学教育を通して大学教師のアカウンタビリティも問われているわけです。日米の彼我の差は大きいわけですが、こうした恐迫観念にとらわれないで教育＝研究できる日本の大学制度は、ある意味で幸せなのかもしれません。ただ10年後の18歳人口激減期を控えて、日本の大学はどのように変化するのでしょうか。

ベルジアン・ライフ寸描

理学部助教授 岡部俊夫

昨年9月半から9カ月、文部省在外研究員として、ベルギー・アントワープ大学のアメリカン研究室に滞在しました。ここでは、私の見た、ベルギーの人々の生活を紹介しようと思います。

ベルギーは、人口1,000万、九州よりやや狭い面積しかないヨーロッパの小国ですが、EC本部、NATO本部を置くヨーロッパの中心でもあります。緯度は50度を越え、樺太の中心位ですから、夏は夜11時近くまで明るく、歩道一杯に張り出したテーブルは、銘柄毎に異なるカップでビールを楽しむ人々で埋まります。反対に、冬は夕方4時過ぎ迄しか明るくありません。天気は、目まぐるしく変わり、細かい粒の雨が降り、霧もかかります。ベルギーの典型的な天気は、と聞けば、雨と答が返って来ます。ベルギーはラテン文化とゲルマン文化の接点にあり、オランダ語・フランス語・ドイツ語が公用語です。オランダ語圏の中心、アントワープで暮した私ですが、私の話す英語に問題はあっても、人々は大変流暢な英語で答えてくれました。ベルギー人が5人居れば、ヨーロッパ中、言葉の問題無しで旅が出来ると言う程、言葉の達人達でした。3カ国語を話せるのは当たり前、秘書の募集公告に、英語・ドイツ語・フランス語の他に、ロシア語かスペイン語、あるいはイタリア語の、話・読・書を条件として挙げていたのには驚きました。ベルギーの人達の日本観について、確かなことは判りません。車の5台に1台は日本製、ステ

レオ・ビデオは高価であるにも拘らず、日本製を持つことが誇りであり、カメラ・時計・電卓は、ほとんど日本製品しか店に置いてありません。圧倒的な日本製品に、貿易摩擦の重大さを知った思いでしたが、少くとも、巷間では日本への反撓を目にすることはありませんでした。それどころか、数年前のNHK朝のドラマ「おしん」が放映され、好評を博していることを知りました。初め、3日間に渡る、ダイジェスト版を放映したところ、大変な視聴率を得、再度、日本で同じ帯ドラマの形式で、しかも、夜8時のゴールデンタイムに放映されているのでした。とは言え、デパートの大売出しで「KAMIKAZE」キャンペーン・セールを目にした時は、彼等の日本理解を喜べない気持ちになってしまいました。

ベルギーには、ヨーロッパ最古の大学の一つと言われるルーバン大学が、大学街と共にその伝統の重さを今に伝えていますが、私の滞在したアントワープ大学は、1965年創立の新しい国立大学でした。入学は無試験ですが、毎年3分の1以上が落第し、卒業出来るのは、入学時の3分の1だということでした。「大学の評価を高めるためには、この厳しいラインを下げる訳にはいかない。」と言った教授の自信に満ちた言葉が印象的でした。卒業生の中から数人が、大学から給料を貰うか、企業からの奨学金を得て研究員となり、学位を目指します。研究室では、教授と研究員の、時には口論のようなオランダ語の

議論がよく聞かれます。敬語に気を配る必要なく、はっきりと自分の考えを話せる言語に羨望を覚えました。また、教授・研究員・技官の別なく、お互いをファーストネームで呼び合うのにも驚かされました。彼等研究員は、その体格のせいばかりでは無く、私には大変大人っぽく感じられました。振舞いも、落ち着いており、何より甘えが感じられません。毎週、金曜日の昼休み時間に、研究室挙げてスポーツハウスに繰り出し、スコッシュを楽しみます。ある時、R技官が小学1年生の男の子を連れて来ました。研究室の一人一人が、握手の手を差し伸べ、大人同志と全く違わぬ挨拶を交すのでした。小さい頃から大人として扱われる彼等と、大学生になっても、どこか子供扱いされる日本の学生との違いは、言語とそれを育んだ日本社会そのものから来るように感じました。

研究員のN君の結婚披露宴に招かれました。教会での式、誰もが出席できるティーパーティの後、親戚・恩師・友人達を招いての盛大な宴です。アンティークの好きな彼等らしく、元レンガ工場の一部を利用した郊外のレストランが会場でした。新郎新婦と二人の両親が客を出迎え、この時、祝いの品を手渡す人もいます。結婚する2人は前もって店を決め、

食器等の欲しい物のリストを作り、預けておきます。招かれた人達は、この店に出掛け、リストの中から自分の財布に合った物を選び、贈るのだそうです。食前酒を飲みながら立話する内に、客が揃った頃、給仕人が人々を食堂へと案内します。部屋の一隅に、見事に飾り付けられた料理が置かれ、それを愛でた後、各自のテーブルに着きます。シャンペン、ワインを供される内に、給仕人の案内で、好みの料理を皿に盛って戻ります。魚料理、肉料理と2度。やがて、食べ終えた頃、新郎が短い挨拶の後、2人だけのファーストダンスに拍手が送られます。次いで、花嫁は父親と、花婿は母親と踊ります。2人がパートナーを変えて行く内に、踊りの輪は次第に広がって行きます。途中、ウエディング・アイスクレークが周囲に花火を閃かせながら運ばれた時と、友人によるカップル紹介の寸劇が演じられた時の他はダンスが続きます。曲が次々と変わり、ワルツもあればロックもあります。夜半を過ぎ、存分にダンスを楽しんだ人々が帰り始めます。それでも、ラストダンスは朝方6時だったそうです。仲人の挨拶も無ければ、主賓の祝辞も無く、司会者の誘導も無く、それでも人々はパーティを存分に楽しむ姿に、やはり成熟した社会を見た思いでした。

留 学 漫 筆

外国人留学生（人文学部）

孫 久富（中国）

ソレ天地タル者ハ萬物ノ逆旅ニシテ
光陰タル者ハ百代ノ過客ナリ

— 李白

山紫水明の富山に来て、はやくも半年が過ぎ去った。光陰の早さを嘆きつつ、厳しい残暑の中をこの学園ニュースの小文を綴ると、過去のあれこれが思わず私の脳裏を去来する。つぎはその幾つかの断片を書いて置く。

故国東来

恩師山口博先生のご推薦により、文部省の国費留学生として富山大学に来たのは今年の一ヶ月末頃である。

初冬の寒さが身に染みる古都の北京を離れ、飛行機が茫々たる雲海を渡っている時、一種の宿望を達した喜びが私の胸を躍らせる。

実は日本への留学は私の長年の願いであった。特に日本文学の翻訳と研究に従事してから、そういう願いをさらに募らせた。万葉の夕波千鳥、棚無小舟、古今の花鳥風月、竹林蝉鳴、芭蕉の寂々たる古池、東大寺の夕べの鐘の音、雪舟の水墨絵、千利休の茶道……、いずれも私の心を引き付ける。そして、そよ風の吹くさやかな月夜、散らつく桜の下で、清酒を啜り、しなやかな着物姿の乙女の踊りを目の前にして、文人の三々五々が古今東西を語り、短歌や漢詩を吟じたりするという大和の風情を身を以て体験し、日本文学の百花苑で、芳しい香りを嗅ぎ、清らかな花びらを摘んで、ゆっくり鑑賞するのは私の憧れる夢であった。

しかし、人生いつ幸運に恵まれるか計り知れないものである。

大学で勉強するとき、そういう夢を抱きながらも、生憎両国の関係は「盈々たる一水の間、脈々として語るを得ず」という状態にあったため、留学どころか、日本の文学作品もろくに親しむことができなかった。その後、幸い国交が回復され、交流の機会が多くなってきたが、私の場合は、授業、翻訳、研究に追いまくられ、なかなか日本へ来る機会を得なかった。

1984年、私は幸運にも日本学研究センターに入り、和歌研究の大家、山口博先生のご指導を載く機会に恵まれた。先生は客員教授として、一年間北京で教鞭をとっておられたのである。

研究センターで、私の専攻は『万葉集』だったので、先生とのつき合いがだんだん深まり、たびたび先生のお泊まりになっている友誼賓館に行き、夜遅くまで教えて載いた。そのとき、先生は中国学界との交際が広く、ときどき文章も依頼され、忙殺の中におられるにもかかわらず、いつも丁寧に教えてくださった。

先生の研究分野は広がった。日本古典文学だけでなく、中国の古典文学もよくわかり、中国の劇曲にも興味が深かった。あるとき、先生のご要請で、私は先生を伴って遼寧大学を訪れた。4日間の日程で、先生は講演、座談会、見学などのハードスケジュールの中を、遼寧省の評劇団の名優たちとも交流をなさった。北京におられる間にもよく中国社会科学院の教授、日本文学研究界の泰斗李芒先生に招かれて京劇を鑑賞した。

先生に影響されて、私の学問の視野もだんだん広がった。研究センターで、私は先生の指導の下に『平家物語』についてレポートを書いてから、また「山上憶良の『貧窮問答歌』と白楽天の『村居苦寒』の比較」という論文を作成し、それは国際交流基金の論文集に掲載された。その後、中日比較文学の研究をさらに深めようとした矢先、残念ながら、先生が中国での任期を終え、帰国の途に立たれた。

人間の巡り合わせは実に妙なもので、2年後に私は国費留学生として、先生のおられる富山にやってくることができ、そして先生のご指導の下に、いままでの研究をつづけることができるようになるとは思ってもよらなかった。これはすべて富山大学のご好意と思師のご尽力のたまものだと感謝する気持ちが胸

一杯。飛行機の中で、私はふと「遠くて近きもの、極楽。舟の道。人の仲。」という『枕草子』の中の一句を思い出し、そして、自分の感謝の気持ちを一首の拙詩に託した。

学海十載望扶桑，春風秋雨幾彷徨。

今朝有幸逢伯樂，故国東来著華章。

念願の地

日本に着いた翌日、東京で作家野間宏氏のインタビューをしてから私はさっそく富山に赴いた。途中、列車が長野を過ぎてから、車窓の景色は変わってきて、青空の広がる関東平野と裏腹に、川端康成の「雪国」の世界となった。周囲の山脈は勿論、農家も道も畑も、麓まで一望の広い野原は果てしない白一色。

実はこの天ざる白い国、み雪降る越中は私にとって、けっして未知な所ではない。大学院で万葉を研究するときに、私はかつて家持の詠んだ「山高み、川遠白し、野を広み、草こそ茂き」という雄大な風景に魅了されたことがある。それより、今、もっと私の心を引いたのは、何と言ってもこの万葉舞台としての価値である。

昔、万葉歌人はここをバックにして幾多の清美な歌を詠んだ。特に家持の旺盛な作歌活動により、ここは万葉の最大の舞台になった。それ以後、宗祇が万葉の跡に杖をひき、「越中に万葉の心を思ひて」と題して作句し、近世には大淀三千風、芭蕉らの名俳人がいずれもこの越中の道を踏みたどっている。

このような昔に輝き、人に歴史の重さを感じさせる土地に、今日私はついに先人の跡を追って訪れることができた。興奮すると同時に、私は何だか使命感というようなものを感じた。

富山で私の住まいは先生が前以てさがしてくれた神通川のすぐそばにある鶴島のアパートで、大変静かな所である。部屋の生活用品は何から何まで、すべて先生の家からいただいたものである。私の留学生活はここからはじまった。

最初の中、恩師のほかに、友達もなく、知り合いもなかった。毎日、六畳の部屋にとじこもって、本を読み、字を書き、さもなくば、外へ出て散策した。アパートの囲りの風景は、雑踏する市内と対照的に、静かで綺麗だった。遠くに中国の西域の天山と比肩する立山は銀屏風のような雄姿を見せ、近くに神通川の清流は夕日に照らされて、いっそう碧く清らかに見えた。

この陶淵明のような「採歌清川畔，悠然見立山」の生活は清淡で，うら淋しく思われるが，学問の研究には持って来いだ。私の「万葉集と詩経との比較研究」という新しい論文（幸い，近頃，国際日本文学研究集会の大会発表に入選通知を受け取った）の作成も，恩師のご指導の下に，そのときから着手しはじめたのである。

ところが，4月に入ると，案外，私のこうした静かな生活に大きな波紋を投じることがあった。富山県の短歌大会に招かれて，私は中日両国の詩歌の交流史を講演することになった。

その日，恩師に紹介されてから，私ははじめて異国の講壇にあがった。鼓動の高まりを押えきれないせいか，大勢の歌人を目の前にして，私は思わず胸がドキドキした。幸い，下にお坐りになっている恩師はしきりにやさしい眼差で私を励ましてくださるので，私は勇気づけられ，スムーズに話ができた。午後，歌評に入り，それぞれの歌について，盛んな論評が展開された。その場面を見て，私は思わず万葉の梅花宴を思い出し，そして感激と詩情にかりだされて，私もつぎのような言葉と漢俳を書いて大会に献じた。

仲春令月，氣清風和，群芳爭艷於四野，百鳥競囀於茂林。余応富山新聞社之邀，欣臨越国春歌盛会。憶兩千余載友好之青史，觀文化交流盛況之空前，感慨万端，情不能禁，故聊小詩幾首，謹表祝賀之意。

霏霏洗輕塵 越国歛宴百鳥吟 舒喉報春臨
往事越千年 萬葉歌壇有遺篇 清輝照碧巒
和漢一水分 黃鸝子規結芳隣 隔岸唱清音

短歌大会の交流で，私がつくづく感じたのは日本の年輩の方の勉強の意欲と教養の高さということである。普通の家庭の主婦もすばらしい短歌をつくれる。これは中国ではちょっと想像しがたい光景である。それはほかでもなく，明治維新を経てからの百年余りの文明の蓄積と勤勉向学の国民性のたまものだと私は思う。そこから，私は何だか日本の今日まで発展してきた秘密めいたものを見つけたような気がする。

交流のお陰で，友達がずいぶん増えた。しかし，それらの友達はほとんど年輩の方で，日本の若い人とのつき合いはなかなかむずかしい。私は何度か，すすんで学部と話をしたが，残念ながら，学生のほとんどは話がすきでないようで，何を聞いても，ただ「あれ，へえ，ほんと，すごい」という単

語しか出なかった。授業の中でも，彼らはけっして中国の学生のように活潑に発言しはしない。中国の学生を教えた経験のある私は日本の学生のおとなしさに感心した。しかし，5月に入って，私のそうした印象とまったく違う場面が出て来た。それは大学祭のときであった。学生はみんな別人のように変って，焼そばを売る男性も女性も大きな声でお客さんを引っぱった。その光景はまったく想像もできず，目をみはるものであった。それで，私は日本の青年を理解するには，もっとその世界に入らなければと思った。

異国芳情

社会仕組の違いがあるためであろうか，日本の方々は，中国人のように日中友好なぞを口にこそしないが，個人と個人のふれあい，友情を大事にしているようである。

富山に来て，富山の人々の内気な友情を肌で感じ，それを思うだけでも胸が熱くなる。

アパートのおじいさんは一人で淋しいだろうと言って，自分のテレビを私に借してくれた。あざみ短歌会の方々も「せっかく日本に来たんだから，いろいろ見せてやりたい」と言って，何回も山の中に案内してくれた。富山新聞社の野島先生は私が和式の浴衣姿がすきだとわかって，わざわざ新調して下さった。学校では，恩師は勿論，山口幸祐先生の授業も拝聴させていただき，一度，近現代文学について，高論をうかがったことがある。生活の面では，人文学部の学生課の方々にもいろいろとお世話になっている。特に忘れられないのは，私が引っ越しをするとき，主任の渡邊女史はみずから若い人をつれてきて手伝ってくれた。人文学部の先生方だけでなく，教養部の気賀沢先生，谷井さん，山ノ下さんにもよく面倒を見てもらい，また図書館の方々も私の研究のために親切にしてくれている。そういう人たちに私はただただ感謝，感激するのみである。日本の方々のご芳情はただ私一人だけに対するものではなく，広い意味で言えば，中国，中国人民に対するものだと私は思う。これから中日両国の文化交流，互いの理解，そして友好の事業に微力でありながら，頑張っていきたいと決意する。

小文はこれでやっと結びになった。ペンを置いて，夕日に照らされて金色に波打っている稲田に目をやると，私は光陰の早さを嘆きつつも，新しい希望の

焰が胸で燃えあがっているのを感じる。

先生は「学問の世界で早く一人前になって、文化交流のために役立とう」と私に期待している。私はその期待にそむかず、さらに一生懸命努力しなければ

ならない……。

月日は百代の過客にして

行きかふ年もまた奮闘せざらむや。

1987年9月1日

西ドイツロイトリンゲン教育大学留学で私の得たもの

教育学部 中学校教員養成課程

音楽専攻 3年次生 篠川 佳代子

私は、昭和61年9月から62年7月までの11カ月間、西ドイツのReutlingen教育大学に、文部省教員養成大学・学部学生海外派遣制度によって留学をしました。富山大学教育学部からは、これまで12人の学生が毎年同大学へ派遣されており、私が13人目の留学生となりました。

Reutlingenは、西ドイツ南西部のBaden-Württemberg州にある、人口約10万人の小都市です。周りはSchwarzwald(黒い森)やSchwäbisch Albという森林地帯に囲まれ、とても自然に恵まれた所です。西ドイツに到着した最初に目を奪われたのは、その緑の美しさでした。四季を通じての変化には、日本とはまた違った趣がありました。こうした環境の中で、私は11カ月を過ごしたのです。

大学では、音楽と教育学を中心に勉強しました。富山大学教育学部の諸先生方の御指導のお陰で、多少ドイツ語には自信めいたものを持っていた私でしたが、ゼミナールに出ても最初は何も理解できず、ただぼんやり座っているくらいなら途中で帰ってしまおうと思うこともしばしばありました。しかし、一緒に学んでいた学生達は、いつも「わからない事があれば質問して下さい」と声をかけてくれ、私のノートをそっとのぞきこんで綴りを直してくれたり、質問をすればイヤな顔ひとつせず丁寧に教えてくれました。

また、少しでも早くドイツ語がうまくなりたいと、Reutlingen市民大学で外国人の為に開かれているドイツ語教室に通ったのですが、そこでは、イギリス、フランス、ポーランド、ユーゴスラビア、トルコ、イラン、エチオピア、ブラジルなどから来ている様々な人達と共に勉強しました。彼らは、ドイツ人と結婚した人・難民・亡命者・学生などいろいろな理由でやってきた人達ですが、いずれも西ドイツに来るまではドイツ語を習ったことはないの、文

法的にはめっちゃくちゃのドイツ語を話します。しかし、ちゃんと通じるのです。そして楽しそうに先生や友達同士で話しているのを見ると、一番よくドイツ語を学んできたのに雑談も出来ない私は、いつもうらやましく思ったものでした。同時に西ドイツに来てもうすぐ1年だと言っている彼らが、全く言葉を知らずに来たこの1年間、どんなにかつらい体験をしてきたことだろうとしみじみ感じ、また大いに励まされたのです。

このような多くの人々の援助と励ましのお陰で、私も少しずつ講義やゼミナールを理解できるようになり、生活にも慣れていったと思います。

ところで、私は大学近くの学生寮に住み、学生達と文字通り寝食を共にしました。また、大学の合唱団に所属してイタリアへ演奏旅行に出掛けたり、冬にはスキーツアーに参加したりと、ドイツ人とまさに24時間行動を共にする機会を多く持つことが出来ました。

そこで私は、ドイツ人と日本人のギャップに悩むことがよくありました。私が合唱団の演奏会で一度失敗をした時は、皆はっきり私のことを非難しましたし、みんなの中で私が会話せず黙っていると、わからないのなら質問しなければだめだといつも注意されました。ドイツ人同士でも、自分の意見・主張をはっきりと持っているの、時にはけんかをしているかと思う程激しく議論をします。また、自分の時間を大切に考えているので、寮の食堂でも自分1人で食事をすますとさっと部屋へ戻って行ってしまい、さびしく思うことがよくありました。そのような最近の西ドイツ人の個人主義・自己第一主義的な考え方を厳しく感じる一方で、私もあんな風に強くなりたいと切実に願うようになったのです。

そうした5月のある日、私は突然自分が変わったことに気付きました。それまでは自信がなくいつも

くよくよと悩んでいた自分が、ありのままの自分を認め、意見をはっきりと述べる力強い人間になったような気がしました。人と会ったり話を聞くことが好きになりましたし、いろいろなことに興味がわいて生きることがとても楽しくなったのです。それは、私にとってとても大切な変化でした。以前は、人間はそう簡単に性格を変えることが出来ないと思っていましたが、日本とは全く異なる環境の中で生活して、私は変わることが出来たのです。その意味でもこの留学は、私にとってかけがえのない重要な体験であったと痛感しています。

こうした貴重な体験が出来たのも、教育学部長の

野村先生や諸先生方、学部・会計係の方々、その他の多くの人々のおかげと思います。本当にありがとうございました。また、西ドイツで第1回目の留学を受け入れて下さったシュティーフェル教授御夫妻と今は亡き大塚教授とその奥様が、この留学の道を開いて下さり、今までの12人の先輩方がその伝統を引き継いでこられたからこそ、私もこの幸運に恵まれたのだと思います。今後は、この体験を糧としてさらに頑張っていこうと思います。また、この留学制度の伝統を守って、多くの人達がこの素晴らしい体験をできるようにと祈っています。

学内交通対策について……………学問の府を守りましょう

富山大学構内交通対策委員会
委員長 中村良郎

文明の利器である車は一面人を殺傷する凶器ともなり、耐えられない騒音源ともなっています。あなたはもっと安全に自由に学内を歩きたいと思いませんか。爆音に悩まされずに思索にふけりたいとおもいませんか。多分誰もが現在の学内の交通事情は殆ど無法状態と思っているのではないですか。例えばバイクは8:30~17:30構内通行禁止の標識が入りくちに立っていますが、アメリカ西部の荒くれ男が馬にまたがって平和な町をじゅうりんするように爆音裏かせて学内のメインストリートを堂々と突っ走っています。車を利用する人はその便利さに慣れてつい他人の立場を忘れ易いものです。

現在、富山大学構内交通規制に関する暫定要項及び暫定実施細目が昭和53年に制定されて以来多少の改定もされていますが、その中の主な柱の一つに駐車登録制があります。これは必要止むをえないと認められる車のみ構内の駐車を許可することにより、

違法駐車をなくし、歩行者の安全確保、教育・研究の環境保全を計ろうというものです。この駐車登録制が完全に守られたとしても四輪の場合、駐車登録者1,172人(62年5月現在)、駐車場許容台数630台、駐車場以外の駐車可能地域の許容台数252台という状況で、遅く来れば駐車出来ないということもあります。従って、駐車出来そうもないと予想される時は車では来ないというのも立派な見識でしょう。

現在の富山大学構内交通規制に関する暫定要項では、駐車違反及び駐車登録違反に対して取りうる措置は口頭の注意以外せいぜい注意書の貼付位しか出来ません。次の段階としては他大学のように各門の入口で不要な車を追返すような抜本的措置を考えなければならないのではないのでしょうか。我々大学にある者としては、規則でしぼられるよりは自発的な意思で学内の秩序を守りたいものです。全学の教職員、学生の皆さんに御協力をお願い致します。

判明している交通事故発生件数

昭和62年 月分	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	2	6	3	1	1	2

昭和62年度富山大学公開講座

－ 現代を考える －

時の流れは過去、現代、未来と続く1次元1方向性のものであるという捉え方がある。私達が未来をより有意義に生きてゆくために過去を踏まえて、人文科学・自然科学の両面から多角的に現代について考える。

(講座の名称)

現代を考える

(開設期間)

昭和62年9月25日(金)～10月17日(土)

(開設日数・時間帯)

11日間、午後6時～午後8時

(ただし、9月26日(土)は午後1時30分～
3時30分と午後3時40分～5時40分
10月17日(土)は午後2時～4時)

(講座内容)

(募集人員)

一般成人 70名

(会場)

富山大学工学部 106 大講義室

(受講料)

4,200 円 (受講料の分納はできません。
なお、既納の受講料は還付しません。)

(申込方法)

下記の受講申込書に記入のうえ、受講料を添えて直接大学へ持参されるか、現金書留で郵送して下さい。

(申込期間)

昭和62年8月1日～9月24日

(申込み・問合せ先)

☎ 930 富山市五福 3190

富山大学庶務部庶務課まで

☎ (0764) 41 - 1271 (内線 205, 206)

回数	期 日	講 義 題 目	講 師 氏 名	所 属 ・ 職 名
1	9月25日(金)	生命と現代社会	小黒 千足	理 学 部 教 授
2	26日(土)	食文化の変遷 一鮎を中心として一	中川 眸	教 育 学 部 教 授
3	26日(土)	伝染病との闘いの後を顧みて	柳田 友道	富山大学名誉教授
4	28日(月)	ロシア文学と現代	矢澤 英一	人文学部助教授
5	30日(水)	公共部門の成長 一その要因と限界一	古田 俊吉	経済学部助教授
6	10月2日(金)	“学生の訴え”から	中村 剛	保健管理センター教授
7	5日(月)	超伝導物性研究の動向	森 克徳	教 養 部 教 授
8	7日(水)	麦粒子と宇宙	松本 賢一	理 学 部 教 授
9	9日(金)	リスクの保障と予防 (リスクマネジメントの思潮)	武井 勲	経済学部助教授
10	12日(月)	“粉”を科学する	杉本 益規	工 学 部 教 授
11	14日(水)	アフリカから現代を考える	富川 盛道	人文学部教授
12	17日(土)	半導体物性研究の新しい動向	龍山 智榮	工 学 部 教 授

－ 高 齢 化 社 会 を 考 え る －

近い将来、5人に1人が老人という「高齢化社会」を迎えようとしている。その中で、誰もが「安定したゆとりのある老後の生活」を望んでいるにもかかわらず、健康はもとより、年金・保険制度の改正や核家族化の進行などによって、老後の生活に不安を抱いている。誰も避けて通ることの出来ないこの老後の生活という問題を、さまざまな角度から考察する。

(講 座 の 名 称)

高齢化社会を考える

(開 設 期 間)

昭和62年10月19日(月)～11月9日(月)

(開設日数及び時間帯)

10日間、午後6時～午後8時

(募 集 人 員)

一般成人 70名

(講 座 内 容)

(会 場)

富山大学経済学部 101 番教室

(受 講 料)

3,600円(受講料の分納はできません。なお、既納の受講料は還付しません。)

(申 込 方 法)

下記の申込書に記入のうえ、受講料を添おて直接大学へ持参されるか、現金書留で郵送して下さい。

(申 込 期 間)

昭和62年8月1日～10月18日

(申 込 み ・ 問 合 せ 先)

☎ 930 富山市五福 3190

富山大学庶務部庶務課まで

☎ (0764) 41-1271(内線 205, 206)

回数	期 日	講 義 題 目	講 師 氏 名	所 属 ・ 職 名
1	10月19日(月)	高齢化社会の現状と課題・ 定年制と雇用問題	竹川 慎吾	経済学部 助教授
2	21日(水)	今後の経済動向と老後の生活	丹羽 昇	経済学部 助教授
3	23日(金)	老年医学と生活	浅井 亨	人文学部 教授
4	26日(月)	老人と家族関係	神川 康子	教育学部 講師
5	28日(水)	フランス文学に見られる老人の生き方	勝野 良一	教養部 教授
6	30日(金)	年金制度と老齢生活	山崎 清	経済学部 教授
7	11月2日(月)	健康生活と運動	河野 信弘	保健管理センター所長 教育学部 教授
8	4日(水)	高齢者と家族の法律問題	松嶋 道夫	経済学部 教授
9	6日(金)	高齢化社会と年金制度	山崎 清	経済学部 教授
10	9日(月)	今後における高齢化社会の課題と展望	中藤 康俊	経済学部 教授

－ 健康・スポーツ教室 －

市民のスポーツに対する関心を高め普及するため、ジョギング、バドミントン、硬式テニスを選んで、それぞれ専門的な理論、実技の指導を行う。

(開座の名称) 健康・スポーツ教室

(開設コース・募集人員・受講対象等)

開設コース名	募集人員	受講対象者	備 考
ジョギングコース	20名	一般男女	
バドミントンコース	20名	一般男女(初心者)	ラケットは貸出可
硬式テニスコース	15名	婦 人(初心者)	先着順

(開設期間)

- ・ジョギングコース 昭和62年8月21日(金)～9月7日(月)の下記日程の9日間
- ・バドミントンコース 昭和62年9月24日(木)～10月2日(金)の下記日程の7日間
- ・硬式テニスコース 昭和62年12月24日(木)～12月27日(日)の下記日程の4日間

(日程・開講時間)

コース	月日	8/21(金)	24(月)	26(水)	28(金)	31(月)	9/2(水)	4(金)	5(土)	7(月)
ジョギングコース		18:00～ 20:00 2時間	18:00～ 20:00 2時間	18:00～ 20:00 2時間	18:00～ 20:00 2時間	18:00～ 20:00 2時間	18:00～ 20:00 2時間	18:00～ 20:00 2時間	16:00～ 20:00 4時間	18:00～ 20:00 2時間

コース	月日	9/24(木)	25(金)	28(月)	29(火)	30(水)	10/1(木)	2(金)
バドミントンコース		9:00～12:00 3時間	9:00～12:00 3時間	9:00～12:00 3時間	9:00～12:00 3時間	9:00～12:00 3時間	9:00～12:00 3時間	9:00～11:00 2時間

コース	月日	12/24(木)	25(金)	26(土)	27(日)
硬式テニスコース		9:30～13:30 4時間	9:30～13:30 4時間	9:30～13:30 4時間	9:30～12:30 3時間

(会場) ・ジョギングコース 富山大学第1体育館他

・バドミントンコース 富山大学第3体育館

・硬式テニスコース 富山大学第1体育館

(受講料) ・ジョギングコース 3,600円

・バドミントンコース 3,600円

・硬式テニスコース 3,000円

(ただし、受講料の分納はできません。なお
受講料は還付しません。)

(申込方法) 下記の受講申込書に記入のうえ、受講料を添えて直接大学へ持参されるか、現金書留で郵送して下さい。

(申込期間) ・ジョギングコース 昭和62年8月1日～8月20日

・バドミントンコース " ～9月23日

・硬式テニスコース " ～12月23日

(申込み・問合せ先) ☎930 富山市五福3190 富山大学庶務部庶務課まで

☎(0764)41-1271(内線205,206)

(講座内容)

【ジョギングコース】 教育学部教授 山地啓司

ウォーミングアップの方法、トレーニング方法とスケジュールの作り方、走り方、コースの選定法、シューズの選び方、レースへの参加と準備の進め方等について

【バドミントンコース】 教養部教授 福田 明 夫 教育学部助教授 西 川 友 之
バドミントンを始めるための知識，フライントと基本ストローク，構えとフットワーク，ゲームの進め方と審判，勝つための戦法，トレーニングとプログラム

【硬式テニスコース】 教育学部助教授 山 下 三 郎 教養部助教授 北 村 潔 和
体力診断及び体力増進法，ストロボ等による技術診断，実技では各種ストローク，スマッシュ等の基礎技術とゲームの進め方について

☆☆☆☆☆☆ 学 生 部 だ よ り ☆☆☆☆☆☆

第37回北陸三県大学学生交歓芸術祭日程表

当番大学 金沢大学
昭和62年10月17日～12月6日

期日 部門	10 月				11 月											12月		
	17日 (土)	18日 (日)	24日 (土)	25日 (日)	7日 (土)	8日 (日)	14日 (土)	15日 (日)	21日 (土)	22日 (日)	23日 (月)	27日 (金)	28日 (土)	29日 (日)	30日～ (月)	6日 (日)		
管弦楽												工学部秀峯会館 厚生年金会館						
軽音楽	学生会館																	
合 唱					学生会館 教 養 部													
邦 楽			学生会館 教 養 部															
能 楽					能楽文 化会館													
美 術											学生会館 教 養 部							
書 道												学生会館 教 養 部						
茶 道										学生会館 教 市 内 寺 院								
放送劇													市内寺院					
落 語							学生全館 市 内 寺 院											
写 真																	学生会館	

昭和62年度 北陸地区国立大学体育連盟表彰者(本学分)

◎ 水 泳 部 福 井 有 希 夫
(実 績)

(工学部機械工学科 4年)

(昭和59年度)

北陸地区国立大学体育大会 200mBr 1位
" 100mBr 1位
" 400mメドレーリレー 1位
中部国公立水泳競技選手権大会 100mBr 1位
中部学生水泳競技選手権大会 100mBr 4位
全国国公立大学選手権水泳競技大会 100mFr 4位
富山県選手権大会 50mFr 1位

全国国公立大学選手権水泳競技大会 100mFr 3位
(昭和61年度)
北陸地区国立大学体育大会 200mBr 1位

(昭和60年度)

北陸地区国立大学体育大会 200mBr 1位
" 100mBr 1位
" 100mFr 1位
" 400mメドレーリレー 1位
中部国公立水泳競技選手権大会 200mBr 1位
" 800mリレー 1位
中部学生水泳競技選手権大会 100mBr 3位
富山県民体育大会 100mBr 1位

100mFr 1位
100mFr 1位
100mFr 1位
中部国公立水泳競技選手権大会 100mBr 2位
" 200mBr 2位
" 400mメドレーリレー 2位
" 800mリレー 2位
中部学生水泳競技選手権大会 400mメドレーリレー 4位
富山県民体育大会 100mFr 1位
200mIM 1位
富山県選手権大会 100mFr 2位
国民体育大会夏季水泳競技 100mFr 18位

第39回北陸地区国立大学体育大会 団体成績一覧表

種 目		優 勝 杯	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	
男	陸上競技	金沢大学長杯	金沢	富山	福井	富医	福医		
	野 球	富山大学長杯	富山	金沢	福井				
	庭 球	富山県体育協会長杯	金沢 富山		富医	福井	福医		
	軟式庭球	石川県知事杯	(中	止)					
	卓 球	金沢市長杯	富山	福井	金沢	富医	富医		
	バドミントン	福井市長杯	金沢	富山	福井	富医			
	バレーボール	福井県知事杯	金沢	富山	福井	富医			
	サッカー	石川県知事杯	金沢	富山	富医	福医	福井		
	ラグビー・フットボール	富山県知事杯	金沢	富山	富医	福井	福医		
	剣 道	福井県議会議長杯	金沢	福井	富山	富医	福医		
	柔 道	富山県議会議長杯	福井	富山	金沢	富医			
	バスケットボール	福井大学長杯	金沢	富山	富医	福井	福医		
	水 泳	福井大学学生部長杯 金沢市議会議長杯	金沢	富山	福井	富医	福医		
	ヨ ッ ト	石川県議会議長杯	金沢	富山	富医	福井			
	子	準硬式野球	福井大学父兄後援会杯	富医	金沢	福井	富山	福医	
		ハンドボール	金沢大学長杯	金沢	富山	福井	富医		
		空 手 道	福井市長杯	金沢	富医	福医	福井	富山	
		弓 道	富山大学長杯	金沢	富山	福井	富医	福医	
体 操		福井市議会議長杯	金沢	福井	富医				
自 動 車		金沢大学長杯	富山	金沢	福井				
女		陸上競技	富山県体育協会長杯	金沢	富山	福井	富医	福医	
		庭 球	石川県議会議長杯	金沢	富山	3, 4位は10月 中旬に決定		福医	
		軟式庭球	福井県体育協会長杯	(中	止)				
		卓 球	石川県体育協会長杯	富山	福井	金沢	富医	福医	
	バドミントン	福井県教育委員会杯	金沢	富山	福井	富医	高短		
	バレーボール	富山大学後援会長杯	金沢	富山	福井	富医			
	剣 道	金沢大学長杯	金沢	富山	富医	福井	高短		
	バスケットボール	富山市議会議長杯	金沢	福井	富医	富山	福医	高短	
	弓 道		金沢	富山	富医	福井			
	水 泳	福井大学長杯	富山	金沢	富医	福井	福医		

家庭教師アルバイトの登録制について

家庭教師アルバイトについては、希望者が多いにもかかわらず求人数が少なく残念ながら希望者数を満すまでにいたっていません。そこで厚生課では、求人数の拡大策をいろいろ検討しているところです。

この対策の一環として希望者の状況を的確に把握し、求人者に対し適任者を適正な報酬で迅速に斡旋すること又希望者には、公平に斡旋すること等を目的に後学期から登録制とし、登録者だけに斡旋することになりましたので、家庭教師希望者で未登録の学生は、至急厚生課奨学係で登録手続きをとって下さい。

なお、登録制についての概要は、下記のとおりです。

記

1. 登録方法

厚生課奨学係で、「家庭教師登録カード」及び「家庭教師登録証」用紙の交付を受け所定の事項を記入して提出し確認後「家庭教師登録証」（有効期間は当該年度限り）を受取る。

2. 斡旋申込方法

求人があると学生部の掲示板に掲示するので、希望者は、厚生課奨学係へ「家庭教師登録証」を呈示し希望する求人番号を申し出て申込書に登録番号等所定事項を記入する。

3. 斡旋方法

毎週火曜日（前週の水・木・金曜日の求人分）

と金曜日（前週の土曜日と当該週の月・火曜日の求人分）の13時に厚生課奨学係において、各求人毎に申込者を抽選により斡旋し、斡旋者には紹介状を交付する。

ただし、週当たり4時間を超えて家庭教師を実施している者又は指導場所までの片道距離が10kmを超える者は、これらに該当しない者の後順位とする。

4. 報告義務

求人者と面接した者は、速やかに、その結果を厚生課奨学係へ報告し、登録証に確認印を受けること。

5. 標準時給額（昭和62年度）

本学で斡旋する家庭教師の標準時給額は、次のとおりであるので、よほどの変更がない限りこの時給額に従うこと。

区分	小学生	中学生	高校生	備考
時給額	1,300 ^円	1,500 ^円	1,600 ^円	交通費別途

(注) 1. 複数を同時に指導する場合は、対象生徒時給額の50%増とする。

2. 交通費は、公共交通機関を利用した場合の額を限度とする。

(厚生課)



昭和61年度アルバイトの斡旋状況

昭和61年度に学生部厚生課で取り扱ったアルバイトの斡旋状況は次のとおりです。表Ⅰは、職種別のアルバイトの斡旋状況及び賃金を、表Ⅱ、図Ⅰは月別の求人件数・求人者数・紹介者数の状況をそれぞれ表わしたものです。

表Ⅰ. 職種別アルバイトの斡旋状況及び賃金

昭和61年4月～昭和62年3月

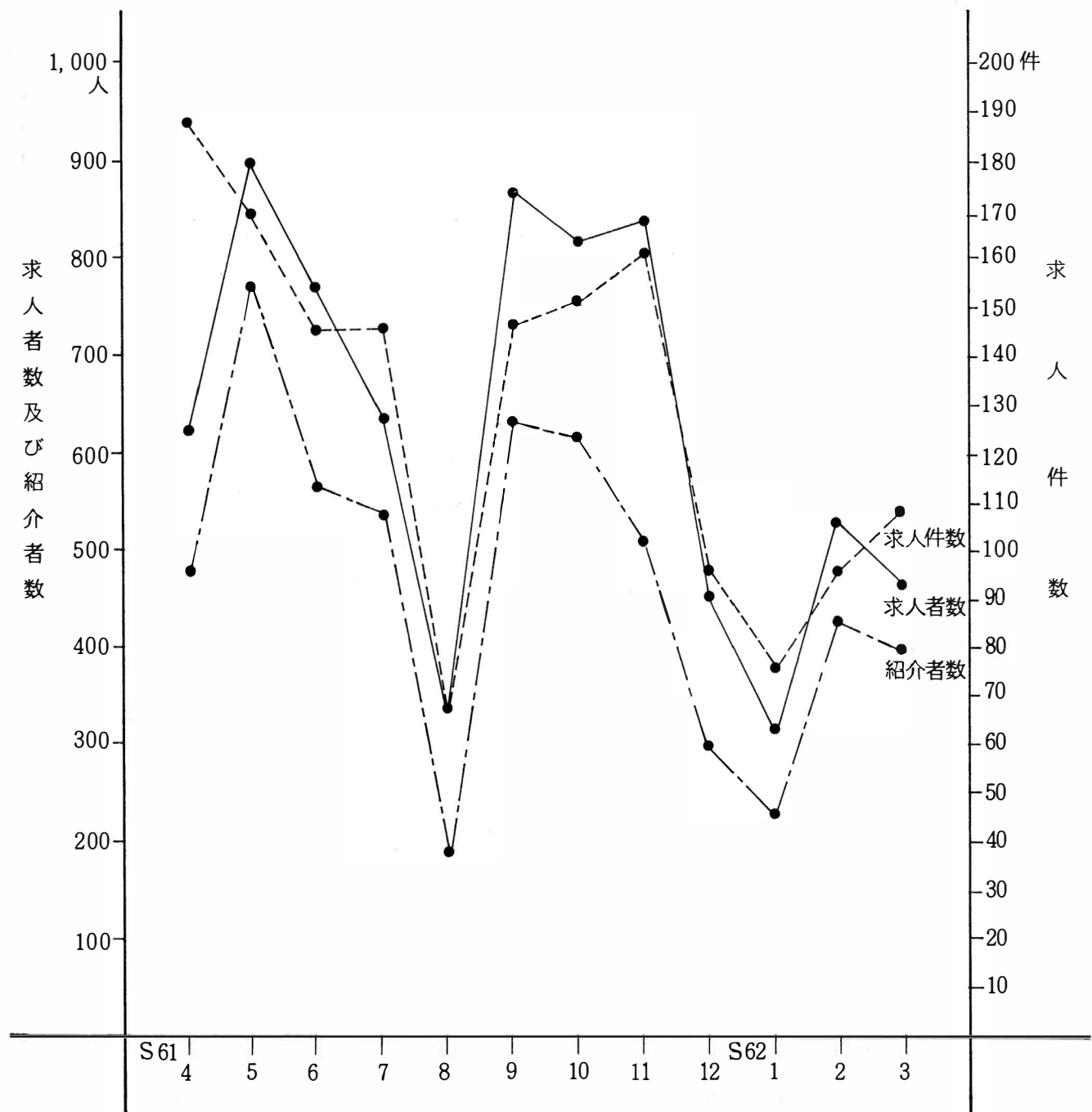
項目 職種	求人件数	求人者数	紹介者数	具 体 例	賃 金
家庭教師	336 ^人	336 ^人	293 ^人	家庭教師	円 時給（中学生の場合） 1,200～1,500
塾講師	59	299	166	塾の講師	時給 800～1,500
事務	42	175	131	一般事務，宛名書き，校正， 電話の対応	日給 4,000～6,000
調査	49	618	475	交通量調査，世論調査	1件 800～1,300
重労働	412	2,799	2,190	荷造，運搬，配達，製本，倉庫整理， 引っ越し，工場の雑用，清掃， 洗車，商品整理，新聞の配達	日給 5,000～9,000
軽作業・ 軽労働	197	1,405	1,047	文書の封入，発送，軽度の包装， 箱詰，検品，測量，駐車場の整理， 歯科助手，場内の監視，電話受付， 店内でのピラ配り	日給 4,000～7,000
特技	15	48	25	タイプ，コンピューターのオペレ ーター，電子オルガン演奏，ピア ノの演奏	日給 5,000～8,000
販売店員	274	887	583	商品販売	日給 4,000～7,000
その他	162	983	724	受付，ピラの戸別配布，プールの 監視補助，イベントの手伝い，み こしひき，採点助手，電話で学習 指導	日給 3,400～9,000
計	1,546	7,550	5,634		

表 II . 月別求人件数・求人者数・紹介者数の状況

昭和61年4月～昭和62年3月

項目 \ 月別	61年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	62年 1	2	3	計
求人件数	187	168	145	145	68	146	151	161	96	76	95	108	1,546
求人者数	622	896	770	631	335	867	816	838	453	315	531	476	7,550
紹介者数	476	765	565	531	189	632	617	511	300	228	425	395	5,634

図 I . 月別求人件数・求人者数・紹介者数の状況



昭和62年度学生教育研究災害傷害保険加入状況

(昭和62年5月1日現在)

学部等		入学年度			59			60			61			62			合 計			備 考	
		項目	在学	加	加	在学	加	加	在学	加	加	在学	加	加	在学	加	加	在学	加		加
			者	入	入	者	入	入	者	入	入	者	入	入	者	入	入	者	入		入
		名	者	率	名	者	率	名	者	率	名	者	率	名	者	率	名	者	率		
学 部	人 文	人 文	39	0	0	81	81	100	91	91	100	95	95	100	95	95	100	401	362	90.3	
		語 学	18	2	11.1	83	83	100	78	78	100	94	94	100	96	96	100	369	353	95.7	
		計	57	2	3.5	164	164	100	169	169	100	189	189	100	191	191	100	770	715	92.9	
	教 育	小 学 校	12	2	16.7	144	144	100	139	139	100	138	138	100	140	140	100	573	563	98.3	
		中 学 校	6	0	0	43	43	100	50	50	100	48	48	100	64	64	100	211	205	97.2	
		養 護	2	0	0	19	19	100	20	20	100	21	21	100	17	17	100	79	77	97.5	
		幼 稚 園	2	0	0	28	28	100	27	27	100	30	30	100	26	26	100	113	111	98.2	
		計	22	2	9.1	234	234	100	236	236	100	237	237	100	247	247	100	976	956	98.0	
	経 済	経 済	43	6	14.0	116	116	100	120	120	100	160	160	100	164	164	100	603	568	94.2	
		経 営	36	3	8.3	118	118	100	119	119	100	142	142	100	144	144	100	559	527	94.3	
		経 営 法	14	1	7.1	55	55	100	60	60	100	119	119	100	122	122	100	370	357	96.5	
		計	93	10	10.8	289	289	100	299	299	100	421	421	100	430	430	100	1,532	1,449	94.6	
	理 学	数 学	22	6	27.3	41	41	100	41	41	100	42	42	100	45	45	100	191	175	91.6	
		物 理	24	7	29.2	37	37	100	39	39	100	46	46	100	47	47	100	193	176	91.2	
		化 学	13	6	46.2	37	37	100	42	42	100	43	43	100	43	43	100	178	171	96.1	
		生 物	8	4	50.0	30	30	100	30	30	100	35	35	100	35	35	100	138	134	97.1	
		地 球	17	9	52.9	29	29	100	29	29	100	32	32	100	32	32	100	139	131	94.2	
		計	84	32	38.1	174	174	100	181	181	100	198	198	100	202	202	100	839	787	93.8	
	工 学	電 気	22	4	18.2	47	47	100	50	50	100	53	53	100	53	53	100	225	207	92.0	
工 化		22	2	9.1	45	45	100	45	45	100	47	47	100	48	48	100	207	187	90.3		
金 属		27	1	3.7	37	37	100	38	38	100	43	43	100	43	43	100	188	162	86.2		
機 械		31	2	6.5	50	50	100	51	51	100	53	53	100	53	53	100	238	209	87.8		
生 産		19	1	5.3	39	39	100	41	41	100	43	43	100	43	43	100	185	167	90.3		
化 学		27	4	14.8	38	38	100	38	38	100	43	43	100	43	43	100	189	166	87.8		
電 子		14	0	0	39	39	100	41	41	100	44	44	100	45	45	100	183	169	92.9		
計		162	14	8.6	295	295	100	304	304	100	326	326	100	328	328	100	1,415	1,267	89.5		
合 計		418	60	14.4	1,156	1,156	100	1,189	1,189	100	1,371	1,371	100	1,398	1,398	100	5,532	5,174	93.5		
専 攻 科	教育専攻科													1	1	100	1	1	100		
	経済学専攻科													4	4	100	4	4	100		
	計													5	5	100	5	5	100		
大 学 院	人文科学研究科	0	0	0							8	8	100	4	4	100	12	12	100		
	理学研究科	1	0	0							25	25	100	32	32	100	58	57	98.3		
	工学研究科	0	0	0							51	51	100	56	56	100	107	107	100		
	計	1	0	0							84	84	100	92	92	100	177	176	99.4		
合 計		1	0	0							84	84	100	97	97	100	182	181	99.5		

昭和61年度学生教育研究災害傷害保険利用状況

(昭和62年3月31日現在)

1. 月別事故発生件数

件数	61年		62年												計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
事故通知	7	11	6	5	5	5	3	3	3	2	5	7	62		
保険金請求	5	8	5	5	3	4	2	1	3	2	2	3	43		
保険金支払い	3	7	4	4	3	4	1	1	3	2	0	3	35		
取り消し	2	3	1	0	2	1	1	2	0	0	1	2	15		
治療中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4		

2. 専攻分野別事故発生状況

専攻分野	区分	正課						中課						合計		学部				合計																						
		体育の実技中		実験実習中		その他		体育の実技中		実験実習中		その他		男	女	1年	2年	3年	4年		1年	2年																				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	計	計	計	計	計		計	計																				
文 科 系	人文学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																		
	教育学部	5	8	13	2	2	1	3	0	0	0	0	7	9	16	1	3	0	0	1	7	8	0	0	0	27	19															
	経済学部	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	6	0	6	1	4	0	9	0															
理 工 系	計	6	9	15	2	2	1	3	0	0	0	8	10	18	1	3	0	0	1	7	14	1	17	19	36	10	9	12	5	36	0	0	0	0	0	0	36	24				
	理学部	4	1	5	2	2	0	2	0	0	0	6	1	7	0	1	1	1	1	4	1	5	0	10	3	13	4	1	5	2	12	1	0	1	13	0	0	1	13			
	工学部	4	0	4	2	2	0	2	0	0	0	6	0	6	0	0	0	0	0	7	0	7	0	13	0	13	5	1	5	2	13	0	0	0	13	0	0	13	0			
合 計	計	8	1	9	4	4	0	4	0	0	0	12	1	13	0	1	1	1	11	1	12	0	23	3	26	3	26	19	2	10	4	25	1	0	1	26	0	1	26	0	1	26
	合計	14	10	24	6	6	1	7	0	0	0	20	11	31	1	3	1	3	4	18	8	26	1	40	22	62	19	11	22	9	61	1	0	1	62	0	1	62	0	1	62	
	内訳	(9)	(9)	(18)	(5)	(5)	(1)	(6)	(0)	(0)	(0)	(14)	(10)	(24)	(0)	(2)	(0)	(2)	(1)	(6)	(17)	(17)	(0)	(25)	(18)	(43)	(9)	(8)	(18)	(7)	(42)	(1)	(1)	(1)	(43)	(1)	(1)	(43)	(1)	(1)	(43)	

() 内は保険金請求件数

① 正課中

体育の実技中

区分	男	女	計
バスケットボール	2 (2)	5 (4)	7 (7)
バレーボール	4 (1)	2 (2)	6 (3)
サッカー	4 (3)	0 (0)	4 (3)
柔道	3 (2)	0 (0)	3 (2)
走	0 (0)	2 (1)	2 (1)
ハンドボール	0 (0)	1 (1)	1 (1)
体操	1 (1)	0 (0)	1 (1)
計	14 (9)	10 (9)	24 (18)

実験実習中

事故原因	男	女	計
トランポリン設置	1 (1)	0 (0)	1 (1)
ガラス棒破損	1 (1)	0 (0)	1 (1)
恒温機運搬	1 (1)	0 (0)	1 (1)
登山ナイフ使用	1 (0)	0 (0)	1 (0)
裁断機による	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ふたの破損	1 (1)	0 (0)	1 (1)
ベンゼンに引火	1 (1)	0 (0)	1 (1)
計	6 (5)	1 (1)	7 (6)

② 学校行事中

行事名	男	女	計
ソフトボール大会	0 (0)	1 (1)	1 (1)
スキー講習会	1 (0)	2 (1)	3 (1)
計	1 (0)	3 (2)	4 (2)

③ 課外活動中

部名	男	女	計
バスケットボール	1 (1)	3 (3)	4 (4)
バレーボール	0 (0)	2 (2)	2 (2)
ラグビー	2 (1)	0 (0)	2 (1)
野球	1 (1)	0 (0)	1 (1)
小林寺拳法	0 (0)	1 (0)	1 (0)
柔道	7 (3)	0 (0)	7 (3)
サッカー	3 (2)	0 (0)	3 (2)
ワンダーフォーゲル	2 (2)	0 (0)	2 (2)
陸上	1 (1)	0 (0)	1 (1)
テニス	1 (0)	0 (0)	1 (0)
ハンドボール	0 (0)	2 (1)	2 (1)
計	18 (11)	8 (6)	26 (17)

④ その他

区分	男	女	計
休憩	1 (0)	0 (0)	1 (0)
計	1 (0)	0 (0)	1 (0)

⑤ 事故発生場所

(どの場所が多いか)

場所	件数	割合
体育館	26 (20)	41.94 (46.51)
グラウンド	13 (9)	20.97 (20.93)
武道場	12 (6)	19.35 (13.95)
実験・実習室	5 (5)	8.06 (11.63)
登山道	2 (2)	3.23 (4.65)
スキー場	3 (1)	4.84 (2.33)
山頂	1 (0)	1.61 (0)
計	62 (43)	100.00 (100.00)

⑥ 傷害種類別件数

(男女別)

傷害名	男	女	計
骨折	12 (9)	2 (2)	14 (11)
捻挫	9 (6)	9 (7)	18 (13)
脱臼	2 (0)	1 (0)	3 (0)
打撲	2 (1)	2 (2)	4 (3)
切傷	4 (2)	1 (1)	5 (3)
半月板損傷	2 (2)	0 (0)	2 (2)
突き指	1 (1)	2 (2)	3 (3)
歯損傷	1 (1)	1 (1)	2 (2)
靭帯損傷	3 (1)	3 (2)	6 (3)
火傷	1 (1)	0 (0)	1 (1)
関節炎	3 (1)	1 (1)	4 (2)
計	40 (25)	22 (18)	62 (43)

◇◇◇◇◇◇ 保健管理センターだより ◇◇◇◇◇◇

カウンセラー 高尾 テルノ

最近、何かと自然現象の異変がマスコミで取沙汰されているが、私の住む山村の人々も、「不思議だ」「おかしい」「不気味だ」と話している。

例えば・蚯蚓(みみず)が少ない ・蛇(へび)が例年のものより長い ・もじな(むじな)が出る。・熊が早く降りてきている ・赤とんぼがまだ里に降りてこない ・蛙が9月だというのに鳴いている また、今年は山草(うど、わらび、すすたけ等)が少なかった。草花も咲き方が順調でなく前後している(狂い咲き)。だんの花(タニウツギ)が5月～6月に咲いていたのに9月にまたポツポツ咲いている。山紫陽花も6月下旬から7月に咲くのに、落ちこぼれの花が9月に入って慌て咲くかの如く小さく咲いている。車窓から見える稲穂も6月に天候が良すぎて、長く伸びすぎ、彼方此方倒れている様子が目に入る。今年は、冬が早いという。

これらの異変は、丁度、安政5年の鳶山の崩壊時代とよく似ていると人々は口にする。

動・植物は、我々人間には気付かない何らかの、自然のリズムの変化を感知しているのであろう。

私たちは、自然の変化、環境の変化に順応できればよいが、順応できず、体調を崩し、時には精神的に挫折することがある。

自然の変化や環境の変化に、順応するためには、まず健康であることです。

頭も心も飽和状態ではなく、いつもどこかに余裕があり空間のあることが大切です。換言すれば、心に余裕があって融通の利くことです。

・朝、昼、夜の食事内容のバランス ・運動と休息のバランスまた早寝、早起きの規則正しい生活をするよう心がけ、そして常に物事に情熱を注ぎ、積極的な活動力こそ健康の維持増進につながるのです。

心身に何か不調を感じたり、様々な問題にぶつかった時、遠慮せず気軽にセンターに来所してください。それぞれの問題について、解決できるよう援助するところがセンターなのです。お互いに話し合う中に新しい発見があって解決への糸口が見つかるのです。

専門の精神科医、カウンセラーが常時いますので、いつでも尋ねてください。

私たちは、啐啄(そったく)の機に近づくべく努力いたしております。

(啐=鶏の雛が卵殻から出ようとして鳴く声。
啄=母鶏がその声を聞いて外から卵殻をつつくこと。)

◆ 行事予定

①第5回北陸地区国立5大学合同合宿セミナー

このセミナーは、日頃思っていること、感じていることなどを自由に話し合い、スキー実習を通して、新しい対人関係、新しい自己を発見するためのグループ合宿です。関心のある方は是非参加してください。

期 日 昭和63年3月2日～4日(2泊3日)(予定)

場 所 大山町 極楽坂スキー場(予定)

参加校(富山大学、富山医科薬科大学、金沢大学、福井大学、福井医科大学)

(日程、会費等決まり次第お知らせいたします)

②健康の集い

VTR、スライドを観ながら、また自由に語り合い、実技を通して「健康について大いに語り、考えよう」ということで、6月から次のテーマで実施(予定)しています。

期日、内容については、その都度お知らせいたします。一人でも多くの参加を期待いたしております。

月日	テ	マ	備 考
6.24	・スポーツによる怪我と応急処置	・テーピングの巻き方	学校医スポーツ医師 市堰英之先生
10.21	・エイズへの対応	①エイズとは何か ②エイズ その恐怖予防策 医療関係者の感染予防	VTR
12.9	・冬の健康と血圧		VTR
2.3	・友と何んでも語ろう		座談会形式

◆ その他

①学校医の来所日程

毎週、水、木、金曜日の午後、内科医。同じ水曜日に整形外科医。また第3火曜日に眼科医の学校医が来所されます。診療、健康相談等にご利用ください。尚、前日までに受付窓口に申し出てください。

②栄養士相談

日常の食事、栄養のバランス、または身体不調時の食事等について気軽に相談においでください。

昭和61年度保健管理センター利用状況（学部別・疾病別）

病名・症状等の区分	学部分別		人文学部		教育学部		経済学部		理学部		工学部		教養部		大学院専攻科		合計	
	性別	性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
内科的疾患			18	27	10	25	62	3	85	9	93	0	126	53	33	1	427	118
感冒・頭痛			2	0	0	1	5	0	2	0	2	0	25	2	1	0	37	3
咽喉炎・扁桃腺炎			2	6	1	11	11	3	12	2	10	1	44	21	8	0	88	44
胃腸の障害・下痢			0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
患起立性調節障害			0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3	0	0	1	5
貧血			1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	5	0	0	0	8	1
その他			4	9	14	18	44	6	46	7	66	2	179	28	34	0	387	70
外科的疾患			5	13	10	20	12	0	17	2	24	0	71	26	4	0	143	61
打撲・つき指・捻挫			1	1	3	8	1	2	10	0	5	0	14	15	2	0	36	26
筋肉・関節の痛み炎症等			0	1	0	4	2	0	5	2	0	0	18	6	4	0	29	13
火・熱・凍傷等			0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	6	2
癩・よう・皰疽等			1	1	0	0	3	1	2	1	2	0	5	4	0	0	13	7
虫さされ・咬傷			0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	7	2	0	0	9	4
骨折・脱臼			0	1	0	2	0	0	1	0	4	0	12	3	0	0	17	6
その他			1	5	2	8	9	0	15	2	14	0	14	8	3	1	58	24
眼科疾患			0	0	0	0	3	1	0	0	2	0	2	0	1	0	8	1
耳鼻科疾患			1	2	1	1	1	0	3	0	3	0	6	6	2	0	17	9
皮膚・泌尿疾患			0	0	0	2	3	2	5	1	3	0	3	1	0	0	14	6
歯・口腔科疾患			0	5	0	13	0	1	0	0	0	1	0	13	0	2	0	35
生理解			1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2	1	0	5	2
その他			19	11	26	54	109	11	40	8	101	0	359	112	8	1	662	197
血圧			4	31	15	121	76	11	16	12	22	2	122	193	2	0	257	370
尿			1	0	1	5	5	0	14	2	5	0	5	9	0	0	31	16
その他の検査			2	8	0	5	14	0	4	2	9	0	40	12	3	1	72	28
健康・栄養相談			1	3	3	4	3	0	0	0	2	1	5	5	0	1	14	14
休養			2	5	3	6	10	2	13	1	22	0	39	11	8	0	97	25
病院紹介			66	130	90	311	374	43	292	52	393	9	1,108	536	114	7	2,437	1,088
合計																		

在籍学生数 5,509名(男 3,772名,女 1,737名)(S 61.4.1現在)

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 学園ニュース編集委員 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

学生部長	瀧澤 弘	理学部	松本賢一
人文学部	山口幸祐	”	広岡公夫
”	榎木謙周	工学部	多々静夫
教育学部	佐々木 浩	”	杉本益規
”	山本都久	教養部	高安和子
経済学部	大野正道	”	山本孝一
”	相澤吉晴		